

弥生、三月。卒業式のシーズンとなりました。本校にも卒業生向けのメッセージがたくさん送られてきています。その中の一通。



祝・ご卒業

立教小学校の皆様

ご卒業おめでとうございます。

新しい人生の門出を心からお祝いいたします。

「何事も為せば成る」という言葉を胸に未来を切り開いた

マーティとドクのように、夢を追いかけ続けてください。

皆様の更なる飛躍を期待しています。

未来でまたお会いしましょう。

令和8年 3月吉日

劇団四季『バック・トゥ・ザ・フューチャー』

俳優・スタッフ一同

昨年度の四年生が『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を観劇し、感激して帰ってきたことや、主人公を演じる俳優、立崇(りす)なおとさんが、本校の卒業生であることなども関係しているのかもしれない、劇団四季さんから届いたすてきなメッセージです。

小学校生活の六年間で、男性教員の身長を越したような児童もおります。そんな姿を見

ながら、ある寓話を思い出していました。

昔むかしのお話

ある年、イネの成長がとても良いときがありました。いつもの年よりも、草丈の伸びがいいのです。村の人たちは、「きっと豊作になる！」と期待して、お祝いの歌まで作って喜び合いました。しかし、秋になってみると、どういう訳か、お米はほとんど実りませんでした。そして、豊作どころか、凶作になってしまったのです。

どうして、こんなことになってしまったのでしょうか。実は、この年は日照が少なく、気温が低い日が続いていました。冷害の兆候があったのです。そのため、イネの苗は、光を求め上へ上へと伸びていきました。いつもより草丈が伸びているイネの姿は、もがきながら苦しんでいる姿だったのです。

大切なことは、イネの草丈ではありません。どんなに草丈を伸ばしても、お米がとれなければ、何にもなりません。本当の成長というのは、目に見えません。しかし、村人たちは、目に見える成長だけを見ていたのです。

この寓話から、成長と成熟の違いについてドキッとさせられると同時に、イネは人間が育てるものではない。イネは育つもの。イネは自ら育つ力を持っている。イネを育てるのは、太陽の光や、水の力、空気であり、土の

力といった神の創造した自然。肥料や農業などの技術が進み、イネの成長をコントロールしているように見えても、人間のできることは限られている。神様の恵みのもと、成長しているのはイネ自身なのではないかと気がつきました。人間にできることは、田を耕したり、田んぼに水を引いたり抜いたり、雑草をとったりと、イネの成長に必要な環境を整えることだけなのかもしれません。

そういえば、「子育て」なんていう言葉もありました。子どもは「育てる」ものではなくて、神様の恵みのもと「育つ」ものにできることは、子どもが育つのに必要な環境を整えることだけなのかもしれません。

子どもたちは、「成功」と「失敗」を繰り返すことで、どうすればうまくいくのか、どうしたら失敗するのか認識していきます。それが「経験」です。そしてその経験には条件があります。「家に火をつけてみた。」「毒キノコを食べてみた。」というような経験は、子どもたちの生存にとつて何の役にも立ちません。死んでしまったら終わりです。親や教員は、子どもを守ることでではなく、安全が保障された環境の中で、子どもたちに、いかに経験を積ませるのか、この点が子どもたちの成熟に大きく影響してくるような気がしてなりません。大人が先回りをして、子どもたちから失敗できるチャンスを奪いたくないものです。(立教小学校校長 田代 正行)